

「暮らしの中に生きるモノづくり」を考える

テーブルコーディネートに活かせるモノづくり

「第2回伝統的工芸品販路開拓等検討会」(9月14日開催)の中での塩貝起志子氏(プロフィール等は前号[VOL.24]をご参照願います)の講話の一部を紹介します。

食の流れと生活スタイルの変化に敏感に

モノを作るにあたっては、今暮らしを意識したモノづくりでないとなかなか購入には繋がりません。家屋は戸建てからマンションに小型化され、核家族になり、生活スタイルも随分昔と違っています。ま

た、地方と都会でも生活スタイルは違います。東京で売れると地方でも売れるという連鎖反応もあるので、やはりマーケットの大きい東京の現代の暮らしを意識することが大事です。

あと、料理のスタイルですね。料理は流行の移り変わりが早く、飲食店業界や、ホテル業界はとても敏感に反応しています。器がないと料理が引き立たないので、そこが一番食器が流通しやすいところと言えます。毎年毎年流行に追いつこうとするのはなかなか大変なことです。

テーブルコーディネートにおいては、シーンを想い浮かべるということがとても大切です。今日は誰が来るのか、何を食べるかによって使う道具が立て替わります。例えばステーキを出す時、食べやすいように一口ステーキに切つてあるなどお客様にも伝わります。

少し崩して組み合わせやすくカジュアルに



黒千代香に大島紬のランナーを合わせたセッティング。

おもてなしのシーンを想い浮かべる

食卓はやはり食べるということが目的なので、コーディネートする時は綺麗に飾る以前に「清潔感」、整った「美しさ」「食べやすさ」が大切です。日本のセッティングで言えば、お箸が手前にあつて左にお茶碗、右にお椀があるというのがやはり食べやすい配置です。伝統的な和食の配置というのは崩すことができなくて、例えば手前にはお箸があり、そこにはベストなサイズの箸置きがあつた方が良いということなどを一つ一つ考えていくと、モノづくりでも活かされる部分というのはたくさんあると思います。実はコーディネートする上での基本はこういうシンプルな部分です。

テーブルコーディネートにおいては、シーンを想い浮かべるというところからコーディネートは始めます。モノを作の時も、どういう人に何をどうかなというように、相手を考える、そういうところからコーディネートは始めます。モノを作の時も、どういう人に何をどういかを想い浮かべて作ると必ずお客様にも伝わります。



向い合わせのセッティングが整然としているだけで美しくみえる。ランナーはテーブル幅の1/3くらい。

今は生活 자체がカジュアルになってきています。カジュアルといつても質が良くなつ

てきており、フォーマル、インフォーマルという言葉もなくなりつつあります。人をもてなす時は「いかに相手にくつろいでもらうか」ということがとても大切なキーワードで、「少し崩してカジュアルに」というのが最近の傾向です。職人さんが作るとそれ一つだけで成り立つ完璧な器になってしまいますが、そこから少し間引いたり、ゆとりを持たせるなど組み合わせがしやすいものを作っていくことが一つの切り口になると思います。



(上)赤は華やかだが、黒の方が組み合わせの幅が広く、使い勝手が良い。
(下)黒は他の素材や色と組み合わせやすく、「遊び」ができる。



(左)たまご型を斜めにカットした今風の鉢。縦でも横でも使え、置き方によって表情が変わる。スプーンやフォーク、お箸でも使えるような微妙なサイズ感が魅力的。形が少しおしゃれなだけで洋食器との相性が良くなる。和風だけど洋風でも似合うようなモチーフを選んで、料理が映えそうな場所に絵柄を入れることも大切。



アルミプレートの葉子置き。ちょうどディナー皿のセンターにもはまるサイズで、アルミを冷やして刺身を盛ると洋皿が和皿のイメージに。木や漆と合わせるなど、工夫次第で今持っているものと組み合わせて使うこともできる。何に使うかはお客様に考えてもらう商品というのも魅力。



(上)昔からある丸紋のお皿で、程よく間引きされた絵付けが美しい。一枚のお皿にいろいろな色が入っているとコーディネートしやすく、季節を問わず様々なテーブルに使って便利。右上には赤いグラスを配置。こういう感じの小さなアクセントはすごくおしゃれに見え、セッティングがとても華やかになる。全体の10%にも満たない程度のアクセントというのではなく、有効。

検討会での委員からのアドバイス

・岡柄は鹿児島の地のものにこだわりすぎず、日常的に使いやすいものを選ぶ。

・菊の柄など伝統的な和の模様
や形を組み合わせることでモ

・器の重さを軽くすることや上
　　ダンな柄が出来上がる。

下や天地を気にすることなく、
使う会の才ナガシ意識する。

・漆のトレーにラインや幾何学
便器を絵の付けを意図する

模様が入るとモダンになる。金をポイント使いすると今風で

和洋共生のものに。(写真A)

・異素材を組み合わせることで若干値段を安くできたり、デザ

イン的にプラスになることも。
（写真B、C）箸置き部分が取り

外せる。この部分を異素材で松
丁毎(ハリヨリ)木内(ヒタチ)、ニイ

竹梅などの絵柄で作るとワンポイントのデザインに。

・お盆などはサイドの立ち上がり
りがある方が使いやすくなっています。

B)、真っ平らでもどこか持ち手になるような仕上げがあると使いやすい。

